目的志向のすすめ

代表取締役社長　安永　暁俊

新年あけましておめでとうございます。皆さまには、ご家族とともに希望に満ちた新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。社員の皆さんには、平生より、実直に仕事に取り組んでいただき、心より感謝申し上げます。

前回、前々回に引き続き、『課題や問題を解決する』ために考えることを述べます。

前回は、手段の前に『目的』を明確にする大切さについて述べました。今回も、目的の大切さについて、具体例を挙げて説明します。

皆さんの職場でも、目的に思いが至らず、手段だけ取り組んで上手くいかない経験があったと思います。今回は、全社的な出来事を例に述べますので、その貴重な経験を共有し、再発防止に努めたいと思います。

安全の門について

皆さんが毎日通り抜けている『安全の門』について述べます。

- ２０１３年５月、安全の門新設を検討開始
- ９月、統括安全衛生委員会で新設決定
  12月末の運用開始を予定
- 12月、取締役会で議論となり再検討
- ２０１４年２月、運用開始

当時、労働災害が続く中、労災ゼロを目指して、安全の門を新設したらどうかというアイデアが出てきました。安全衛生委員会が主導して議論し、９月の統括安全衛生委員会で門設置を決定しました。

誠に申し訳なかったのですが、私は出張先で、メールに添付された議事録を読むのを忘れたまま、12月になってその話を耳にしました。詳しく話を聞いていく中で、せっかく新しいことに挑戦するのに、それが全社挙げての活動になっていないと感じました。

当時、安全衛生委員会の決定事項を事業部へ報告する仕組みがなく、事業部を巻き込んだ活動になっていませんでした。役員もほとんど知らず、一部の人だけの取り組みになってしまっており、残念に感じました。設置工事があることすら知らなかった社員がほとんどでした。

もっとより多くの人がしっかりと話しあって、機運を盛り上げる必要があると判断し、12月開始を延期するようお願いしました。話を聞いていくと、安全衛生委員会の中で、だれが責任者かあいまいな所もありました。安全の門を設置している先輩企業に学ぶ姿勢もありませんでした。

少し急ぎすぎていると感じたので、もう一度、1月に臨時統括安全衛生委員会を開いてもらい、事業部も巻き込んで皆さんでよく話し合ってもらいました。ようやく2月の取締役会で会社として力を込めて取り組むことを決め、2月14日から晴れて運用開始となりました。

目的を意識することの大切さ

この安全の門の設置について振り返ります。

労働災害が続いている『現状』から、門を設置して、労災ゼロを達成するという『目標』は明確だったと思います。しかしながら、そこに『目的』の意識が足りなかったとの反省があります。

安全の門の設置というのは、あくまで目標達成のための『手段』の一つですが、それが『目的』になってしまいました。手段である安全の門を造ればよいとだけ考え、それを最優先に進めてしまいました。一斉メールで職制へ通知した後は、工事日程を詰めることに注力してしまいました。根底には、安全の門さえ設置すれば、労働災害は減るという短絡的な発想があったと思います。

目的志向のすすめ

では、どうすれば良かったのでしょうか。

まず始めに、安全の『目的』は何かをもっと熟考すべきでした。安全の門は会社全体の取り組みですので、会社の視点からの目的を考えます。会社にとって最大の目的は、企業理念の実現です。企業理念という大目的を実現するためには、まず安全の目的を果たすことが第一歩となります。

WHYの視点から、安全の門で労災ゼロを目指す理由や意義を考えてみると、『社員の身を守ること』や『誰もが健全に、仕事に取り組める職場環境を整えること』が安全の目的であるとわかります。

次に、安全の目的から考えて、安全の『目標』を設定すべきでした。目標には、『労災ゼロ』という直ぐに思いつくものに加えて、『全社員に安全への意識を高めてもらうこと、それを維持すること』もあると気づくはずです。

目的や目標から考える

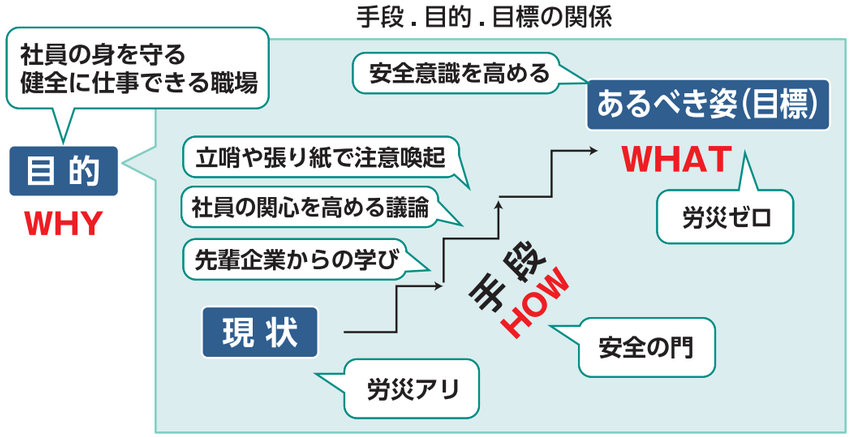
『労災ゼロ』は大きな目標ですが、とても遠い道のりです。目標が遠すぎると、検討を進めていくうちに、目の前にある『手段』にばかり気を取られてしまいがちです。常に、目的や目標を忘れないことが大切です。『目的』を頭に置いて、そこから設定した『目標』を意識することで、自由で幅広い発想の、様々な手段を考えつくのです。

『全社員が安全への意識を高めること、それを維持すること』という身近な目標から考えていけば、より素晴らしい発想に繋がります。

✓安全意識を高めてもらうために何をすべきか、考え始めたらよいと思います。安全の門を通り抜ける時に、いかに安全を意識してもらうか、いろいろなアイデアが出てくるはずです。

✓安全の門について推進する中で、一人でも多くの人と議論していけば、それが多くの社員に安全を意識してもらうキッカケになるとも考えられます。安全の門を造るまでの道のりも、安全意識を高めるのに役立ちます。

✓本当に安全の門があれば、安全意識が高まるのだろうかとの素朴な疑問もわいてきます。そうすると、我々の周りの先輩企業はどうやって取り組まれているのか、長年にわたって意識を高める仕組みや工夫があるのか思いをめぐらせ、先人に学ぼうとするはずです。



目的志向は強力な推進力となる

目的を実現するために、目標を達成するために何をすべきか、考えれば考えるほど、自分なりにこだわりや思い入れが出てきます。

そのこだわりや思い入れが、安全の門の活動に魂を入れることになります。推進者が心の中に、熱い想いを育てていけば、その想いは周りの人にも伝わります。何人もの人がこだわりをもって議論すれば、より良い結論につながります。それらが力強い推進活動になるのです。

そのためには、目的や目標が何かを考えに考えて、自分自身が納得するまで考え抜くことが大切です。

12月に仕切り直してからは、事業部を巻き込んだ全社活動となりました。安全の門を設置する目的や目標を改めて検討してもらい、安全意識を高めてもらう手段について、真剣に議論してもらいました。その中から、門に張り紙を差し込めるように工夫する素晴らしいアイデアも出てきました。労働災害の発生後は赤い張り紙で、一層の注意喚起を呼び掛けるものです。

2月14日のスタートでは、役員、部課長全員で立哨し、安全の門の大切さについてアピールしました。何か大きな災害があったときは、関連する管理職が立哨して安全の意識を呼びかけています。

皆さんが今日、門を通り抜ける時に何を感じますか。それはただの緑の鉄門ではありません。色んな経緯があって、安全を願う多くの人の想いが詰まった門なのです。是非とも、安全の門を新設した目的に思いをはせてほしいと思います。

ご安全に！